

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「Society5.0」の社会を生きていく市民としての力量を備えた「おとな」を育てる学校

「おとな」= 自由な精神 Liberty / Liberality * をもち、広く深い教養を備え、自律的に学び続ける人

(* Liberty = 自己決定の主体となること / Liberality = 我執にとらわれないこと)

学習活動、部活動、自治活動を三本柱として充実させ、すべての教育活動を通して4つの力(4C)を身につける

かんがえる力(Consider) つながる力(Communicate) つくりだす力(Create) かえていく力(Change)

2 中期的目標

1. 学力・学習力の向上と進路実現支援

(1) 学習マネジメント力の育成

生徒が学習における「R-PDCAサイクル」を通して、自己の学習の進め方を自律的に改善していけるよう支援する。

[R (Research) 診断 P (Plan) 計画 D (Do) 実施 C (Check) 評価 A (Action) 改善の5つの段階を循環させるサイクル]

(ア) 生徒が継続的にリフレクションを行い、教員が適切にフィードバックできるシステムを整える。

(イ) ICT 機器を活用し、生徒が自主的・計画的に学習をすすめていける環境づくりをすすめる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「学習習慣を定着させる指導をしている」指標を8.0程度まで上げる。(H29:6.5/H30:6.7/R1:6.7)

指標 = $(SA \times 2 + A \times 1 + D \times (-1) + SD \times (-2)) / 10$ [SA:あてはまる/A:どちらかといえばあてはまる/D:どちらかといえばあてはまらない/SD:あてはまらない]

(2) 学ぶ意欲を高める授業・探究活動の充実

主体的・対話的な授業づくりを全教員で進め、「総合的な探究の時間」の充実とともに、各科目においても探究的な学びを生み出す授業を工夫し、深い理解とさらなる学びの意欲につなげる。

(ア) 生徒の「ふりかえり」、授業アンケート結果、教員相互の授業見学や授業研究等、生徒の学習効果についての検証ができるカリキュラム・マネジメント体制を整える。

(イ) 「総合的な探究の時間」を、生徒の教科での学びを横断的に関連づけ、学びへの意欲をさらに高めていく学習へと発展させる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標を8.0程度まで上げる。(H29:6.4/H30:6.8/R1:6.0)

(3) 「人生100年時代」を生きる生徒の進路実現支援

多くの生徒が志望する大学受験指導はもとより、受験のその先にあるものを見定め、大学や社会でさらに成長していく生徒を育成する。

(ア) 本校卒業生をはじめ、外部の講師や職業人と交流し、変化の激しい社会を生きる自己のあり方を考える機会を1年次からもうけ、生徒のキャリア意識を高めていくための支援を行う。

(イ) 生徒の「受験力」を向上させるための系統的な計画のもと、教員のスキルアップを図り、生徒が目的意識をもって主体的に取り組んでいくための支援体制や環境整備を進める。

* [学校評価に関する調査] 生徒「進路実現に向けて適切に指導している」指標を12.0程度まで上げる。(H29:9.8/H30:10.7/R1:10.1)

* 国公立大学への進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす。(H29:25.2%/H30:29.2%/R1:23.8%)

2. 主体的行動力の育成

(1) 自治力、活動力の強化

社会を生きる市民としての力量を備えた人を育成するために、様々な教育活動の場面で、生徒が自ら考え、他者とともに行動し、その成果と課題を検証する機会を設ける。

(ア) 体育祭、文化祭、HR合宿、スポーツ大会、書月祭等の生徒主体の取組みはもとより、学校生活の様々な場面での生徒の参画意識を高めるために、自治会活動や委員会活動等のさらなる活性化を図る。

(イ) 生徒の約9割が加入する部活動を本校における生徒育成の重要な柱と位置づけ、部活動のあり方を検討し、全教員による指導体制を整えるとともに、外部人材の積極的活用もすすめる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「生徒の自主性を重んじている」指標12.0程度まで上げる。(H29:10.3/H30:11.3/R1:10.8)

(2) 家庭・地域・社会との連携による生きる力の育成

生徒がグローバル・マインドをもって主体的に社会に参画できる資質・能力を育成するために、家庭との連携を深め、地域・社会の組織や人々との関わりから学ぶ機会を積極的に設ける。

(ア) 家庭との日常的な意思疎通をきめ細かく行い、学校と家庭とが協力して生徒を育ていける信頼関係を築く。

(イ) 「総合的な探究の時間」をはじめ、様々な取組みにおいて、地域・社会の組織や人々と関わる機会を設ける。オーストラリアの学校との相互交流についても、生徒の語学力の向上とグローバル・マインドの育成を期する取組みとしてさらに発展させていく。

* [学校評価に関する調査] 保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標10.0程度まで上げる。

(H29:6.7/H30:8.9/R1:7.6)

*〔学校評価に関する調査〕生徒「大学や中学校、地域の方たち、外国の方たちと交流する機会を設けている」指標 11.0 程度まで上げる。
(H29:6.8/H30:10.4/R1:6.8)

(3)「人権教育の4側面」をふまえた人権教育の実現

「人権のための教育(目標)」、「人権としての教育(機会)」、「人権を通じての教育(環境)」、「人権についての教育(内容)」の4つの側面をふまえた人権教育を実施する。

(ア)「人権についての教育」として、3年間の系統的な人権学習プランを実施し、生徒が様々な人権課題を自身の課題と重ね合わせて考え、豊かな人権感覚を身につけられるようにする。

(イ)一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して過ごせる学校づくりへの意識を学校全体として高めていく。また、スクール・カウンセラー等の専門職の方と連携した教育相談体制を整備するとともに、教職員は生徒の小さな変化を見逃さず、丁寧に向き合い、組織的な生徒支援ができるようにする。

*〔学校評価に関する調査〕生徒「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」指標 11.0~12.0 程度を維持する。
(H29:9.9/H30:10.9/R1:11.3)

*〔学校評価に関する調査〕生徒「悩みなどがあるときに相談できるようになっている」指標 12.0 程度まで上げる。(H29:9.0/H30:10.6/R1:10.9)

3. 学校組織力の向上

(1) 学習する学校組織づくり

全ての教職員が、教職に携わる者としての矜持を持ち、「めざす学校像」をふまえて、よりよい教育活動を実践していけるよう、常に学び、支え合う学校組織をつくっていく。

(ア)すべての業務について、従来の枠にとらわれることなく、的確な状況把握に基づき、効果的・効率的に進めていけるよう改善していく。

(イ)変化の激しいこれからの社会に対応し、よりよく生きていくことのできる生徒を育む学校づくりをすすめるために、様々な機会をとらえて研修の機会を設ける。

*〔学校評価に関する調査〕教職員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標 5.0 程度に上げる。(H29:1.6/H30:-0.8/R1:2.4)

(2) 職場環境の改善

教職員の意思疎通を促進し、教員相互の理解を深めるとともに、業務効率を高めていくために、職員室等学校施設や設備の改善をすすめる。

(ア)教育活動における問題意識や悩みなどを教職員間で気軽に話し合える場を設け、「開かれた同僚性」に満ちた職場づくりをすすめる。

(イ)ICT 機器を活用できる環境を整備し、業務の効率化を促進する。

*〔学校評価に関する調査〕教職員「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」指標 5.0 程度に上げる。(H29:1.6/H30:2.4/R1:1.9)

(3) 危機管理体制の整備

すべての生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、施設・設備・制度の改善をすすめるとともに、危機管理体制をさらに充実させる。

(ア)生徒個々の状況を踏まえ、合理的な配慮ができる施設・設備改善を行う。

(イ)近隣の地域と連携した危機管理体制を整える。

*〔学校評価に関する調査〕教職員「災害や事件に対して迅速かつ適切な対応ができるような校内体制を整えている」指標 9.0 程度に上げる。
(H29:6.5/H30:8.7/R1:7.8)

*〔学校評価に関する調査〕生徒「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」指標 11.0~12.0 程度を維持する。(H29:10.6/H30:10.9/R1:11.3)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒 「学校行事に積極的に取り組めるよう指導している」が指標 14.4(昨年 12.4)と上昇。様々な行事を縮小して実施してきた中でも、生徒の主体的な取組を推進できた。「学ぶ意欲を引き出している」は指標 8.7(昨年 8.3)と上昇しているが、他の項目と比較して数値が低く、引き続き本校の課題として重点的に取り組む必要がある。</p> <p>保護者 「PTA 活動が活発」の指標 5.9(昨年 9.3)、「保護者の参加機会がある」が 5.6(昨年 13.7)であった。コロナ禍の状況でも、特に現1年生の保護者に対して、学校の取組への理解促進や PTA 活動への参画を可能にする手立てを講じなければならない。</p> <p>教職員 「教員間で授業方法や評価のあり方等について検討している」が 3.0(昨年 5.4)に下降した。生徒の「学ぶ意欲を引き出している」の指標が低いことと明確につながっている。「問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」も 0.2(昨年 2.0)と低い評価であることと合わせて、本校の重要な課題と認識して取組まねばならない。</p>	<p>第1回(7月17日) 授業見学について ・よく生徒に問いかけ、その反応を見て授業を行っている。・生徒がしっかりと授業を聴いている。こうした授業を続けてほしい。・先生が元気なので、生徒も元気になる。・生徒が積極的に挙手して発言する姿が印象的だった。・生徒に対する温かい愛情が感じられる。 学校経営計画について ・内容がわかりやすく、能動的な人物を育てていこうとすることがよく伝わってくる。 その他 ・良い意味で穏やかな学校で、安心感があり、進学させたい学校である。</p> <p>第2回(11月11日) ・コロナ禍にも関わらず、多くの行事を実施したことに感心する。・いかに安全に安心して生徒が活動できるかをよく考えている。・当たり前のことができない状況で、今までの当たり前を見直し、さらによくする機会にしてほしい。・国際交流について、リモートでの交流等は考えていないのか。</p> <p>第3回(2月19日) 学校教育自己診断について ・今の良いところを続けてほしい。 ・個々の教員が力を持ち、成熟した教員集団なのではないか。 ・コロナ禍の中、このような指標が出ているのは、今までの積み重ねの結果だと思う。 学校経営計画について ・相談室の改修に関して、相談しやすい自然な雰囲気づくりを進めてほしい。 「探究」の取組について ・「探究」では、将来の生きる力を育てていると感じる。 ・今後もこの活動を継続してほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ・学力・学習力の向上と進路実現支援	<p>(1) 学習マネジメント力の育成</p> <p>(2) 学ぶ意欲を高める授業・探究活動の充実</p> <p>(3) 「人生100年時代」を生きる生徒の進路実現支援</p>	<p>(ア) 学期末に実施する生徒の「ふりかえり」を有効活用できるシステムを整える。</p> <p>(イ) 生徒の自主的な学習に ICT 機器を活用できる環境整備を進める。</p> <p>(ア) 主体的・対話的な授業づくりを進めるとともに、その効果を検証し、改善していける仕組みをつくる。</p> <p>(イ) 「総合的な探究の時間」を教科学習と関連づけ、生徒の学習意欲をさらに高められるよう充実させる。</p> <p>(ア) 生徒のキャリア意識を高める取組みを1年次から進める。</p> <p>(イ) 生徒の「受験力」向上のための体系的な指導計画を整備・実行する。</p>	<p>(ア) 「ふりかえり」の集約・共有及びフィードバック体制を確立する。</p> <p>(イ) 自習室等教室の Wi-Fi 環境を整備する。</p> <p>(ア) 「授業づくり推進」チームの設置。研究授業や研修を企画する。</p> <p>(イ) 当該学年の全教員の協働による新たな探究プログラムの実施。成果の検証。生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標 7.0 程度(昨年度 6.0)</p> <p>(ア) 生徒が自己のあり方・生き方と学ぶ意味等を考えた上で、進路目標を定める。</p> <p>(イ) 生徒「進路実現に向けた適切に指導している」指標 11.0 以上(昨年度 10.1)</p>	<p>(1)(ア) 「ふりかえり」の様式、実施方法、面談等への活用等が定着した。()</p> <p>(イ) 自習室、図書室、授業で使用する全ての教室の Wi-Fi 環境を整えた。()</p> <p>(2)(ア) 「授業づくりチーム」が授業見学会、研究会を企画。観点別評価の検討も含め、学校としての授業づくりを推進した。() (イ) 当該学年の全教員で内容・方法を検討しながら「探究の時間」を実施した。生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標 7.2 ()</p> <p>(3)(ア) 分野別大学体験講座(1年)を実施し、「自らの進路について考える機会となった」肯定率 9割超 ()</p> <p>(イ) 生徒「進路実現に向けた適切に指導している」指標 11.6 ()</p>
2 ・主体的行動力の育成	<p>(1) 自治力、活動力の強化</p> <p>(2) 地域・社会との連携による生きる力の育成</p> <p>(3) 「人権教育の4側面」をふまえた人権教育の実現</p>	<p>(ア) 自治会・委員会活動をさらに活性化し、体育祭、文化祭等の行事への生徒の参画意識を高める。</p> <p>(イ) 外部指導者の活用を含めた部活動のあり方及び支援体制について検討する機会を設ける。</p> <p>(ア) 家庭との日常的な連絡をよりきめ細かく行い、信頼関係を築く。</p> <p>(イ) 生徒が地域・社会の方々と関わりながら学ぶ機会を多く設ける。</p> <p>(ア) 人権に関する新たな課題に対応した知識・スキル・態度を育成するプランを計画、実施する。</p> <p>(イ) メンタルサポートを必要とする生徒への支援を組織的・継続的に行える体制をつくる。</p>	<p>(ア) 生徒が自治会・委員会活動等を通じて、議論の進め方や協働のあり方を習得する。</p> <p>(イ) 生徒がより主体的に活動し、その成果や課題を省察しながら、人間的成長を図る。</p> <p>(ア) 保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標 9.0 程度(昨年度 7.6)</p> <p>(イ) 生徒「交流する機会を設けている」指標 8.0 程度(昨年度 6.8)</p> <p>(ア) すべての生徒が人権課題に関する高い見識を持ち、行動につなげる意識を持つ。</p> <p>(イ) ケアが必要な生徒の情報を関係者で共有し、必要に応じてケース会議を開催する。</p>	<p>(1)(ア) 自治会・委員会を開催する際に、生徒が会の運営・進行を行う形が定着した。() (イ) クラブ活動を生徒の主体性育成の重要な場であるとの認識を全教職員で確認した。()</p> <p>(2)(ア) 保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標 9.6 ()</p> <p>(イ) 生徒「交流する機会を設けている」指標 5.4(コロナ禍の状況により多くの活動を制限したためと考えられる)(-)</p> <p>(3)(ア) 様々な人権課題について学ぶ機会を昨年度より増やし、生徒は多様な人がともに生きる社会での自己の生き方を考えることができた。生徒「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」指標 14.0 ()</p> <p>(イ) ケアを要する生徒について、学年会議、人権教育担当者会議、職員会議などで常に共有し、SC の協力も得て、ケース会議も開催した。()</p>
3 ・学校組織力の向上	<p>(1) 学習する学校組織づくり</p> <p>(2) 職場環境の改善</p> <p>(3) 危機管理体制の整備</p>	<p>(ア) 各分掌、委員会、学年等の連携・協力を円滑化するとともに、業務の見直し等も行う。</p> <p>(イ) 計画的な職員研修とともに、外部の研修で得た様々な情報も共有する機会を設ける。</p> <p>(ア) 教務室を教職員が気軽に話し合え、情報発信や収集もできる場として整備する。</p> <p>(イ) 授業用タブレットを利用しやすい方法で整備し、活用方法の学習会を実施する。</p> <p>(ア) すべての生徒・教職員にとって配慮が行き届いた施設・設備となるよう点検を行い、不備な部分を改善する。</p> <p>(イ) 災害等が発生した際の地域協働のあり方について検討し、そのための体制づくりをすすめる。</p>	<p>(ア) 教員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標 4.0 程度(昨年度 2.4)</p> <p>(イ) 教職員が教育に関する多くの情報を共有し、共通理解に基づいた協働的実践をすすめる。</p> <p>(ア) 教員「教員間で話し合える職場環境である」指標 3.5 程度(昨年度 1.9)</p> <p>(イ) 全教員が ICT 機器を活用した授業が実施できるようにする。</p> <p>(ア) 安全衛生委員会を毎月開催し、学校環境の点検を実施する。</p> <p>(イ) 災害時に地域の避難所としての機能を果たせるよう地域と協議する機会をつくる。</p>	<p>(1)(ア) 教員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標 0.6 昨年度より低い評価となった要因を検証し、次年度の重点課題として取り組む。()</p> <p>(イ) 教職員の情報共有スペースを整備し、掲示方法なども改善し、職員会議での外部研修の内容を共有する時間を設けた。()</p> <p>(2)(ア) 教員「教員間で話し合える職場環境である」指標 0.2 教職員の日常的なコミュニケーションの促進に向け、物理的環境の整備及び教員体制の改編も含めて、対策を講じていく必要がある。()</p> <p>(イ) 授業用のタブレットパソコンを全教員分の台数を配備した。()</p> <p>(3)(ア) 安全衛生委員会を毎月開催し、学校環境の改善を随時行ってきた。()</p> <p>(イ) 近隣住民との相互の理解を深めるため、行事等の実施に合わせて、対話できる機会を設けた。()</p>